

4. 附属センター及び附属校園

4.1. 人間科学研究センター運営委員会

神戸大学発達科学部附属人間科学研究センターは、「人間についての自然科学と人文・社会科学を総合した総合科学としての人間科学研究を行うこと」を目的として、平成4年4月に設置され、発達科学部の研究教育活動の一翼を担ってきた。

このたび学部改組を契機として、平成17年4月から本センターを、大学院総合人間科学研究科附属施設「発達支援インスティテュート」へ発展的に転換することになった。

したがって、本センターは、平成16年度をもって業務を終了し、センターに所属している2名のスタッフは、平成17年度より発達科学部に発足する人間行動学科に所属して、従来の研究教育活動をさらに発展させていくことになった。

(1) 人間科学研究センターセミナーの開催

- ・ 主体としての子どもの育ちを考える（報告者：姫路工業大学環境人間学部，守屋 淳 助教授。平成16年2月16日（月）15：00 - 17：00，発達科学部 A 棟 2 階中会議室 C）
- ・ スウェーデン文化の歴史的前提（報告者：大阪外国語大学，古谷大輔 講師。平成16年2月23日（月）15：00 - 17：00，発達科学部 A 棟 2 階中会議室 C）
- ・ 福祉カウンセリングの課題と方法（報告者：NPO 法人日本福祉カウンセラー協会会長，坂野信義博士（ニューポート大学西日本校学長）。平成16年7月5日（月）15：30 - 17：30，人間科学研究センター 4 階 E452）
- ・ 国際社会における日本と日本人（報告者：元外交官・甲子園大学講師，田近一泰 氏）。平成16年11月29日（月）15：30 - 17：30，人間科学研究センター 4 階 E452）

(2) 紀要の発行（第11巻第2号：平成16年12月13日発行）

研究論文7編，
研究報告1編，
センターセミナー・プロジェクト報告4編

(3) ホームページの更新

（人間科学研究センター運営委員会委員長 柳田泰義）

4.2. 学部・附属交流会議

学部・附属交流会議は、例年どおり2ヶ月に1回の割合で開催した。今年度には、法人化に伴う予算区分や職員の勤務時間の変更，校則規程の改正など，様々な手続きの変更についての説明や確認にかなりの時間と精力を費やした。また，中期計画の達成点検のための年次報告の記載についても，同様に多くのエネルギーを費やした。

1. 兵庫県，神戸市，明石市との人事交流協定

平成16年4月1日をもって，法人化に伴い神戸大学は兵庫県，神戸市並びに平成17年3月1日に明石市と教員の人事交流協定を結んだ。人事交流は教員人事の活性化，教員の資質向上のために必要であり，交流人事自体に異論はなく，委員会でもスムーズに合意された。しかし，実際に交流を活発にするためには，公立学校教諭と発達科学部附属校園教諭のあいだにある給与等の格差がネックとなること，附属校園が先進的な教育実践を行うための条件整備など，重い課題があることが再認識された。なお，附属校園での交流期間は原則として3年間とした。

2. 教育実習について

教育実習を行うために、教育学部時代よりいわゆる「二重履修」をせざるを得ない状況にあったが、その全面的な解消に向けて、学部教務委員会と附属校園のあいだで相当な話し合いが行われてきた。本委員会では、その話し合いを受けて、最終的な審議を行い、教育実習期間は原則として9月に行い、一部の教科で6月、10月に実施すること、附属幼稚園では2月、3月にも実施することとした。

3. 安全危機管理

附属校園の3キャンパスごとに、校門に警備員を配置する他、県警との連絡方法の確認、教職員の安全意識の向上のための防犯訓練、研修の実施、児童生徒を対象とした防犯訓練、防犯教室の開催を行うこととした。これらは従前より実施されていたが、学校が犯行の場となる事件が続く、一層の注意をするよう確認した。しかし、小学校では児童を対象とした防犯訓練が子どもにマイナス影響を与えがちであること、校門警備が十全ではないことなど、今後解決すべき問題も話し合った。

4. 35人学級について

附属住吉小学校より、35人学級に変更したい旨が提案された。35人学級にした場合、運営交付金、委任経理金が減少するなど、主に会計問題が難点と思われること、また、各附属校園により、考え方が異なっていることが明らかになり、継続的に審議することとした。また、学級人数問題と必ずしも直結しないが、神戸大学の中期目標、中期計画に掲げている高校新設問題も合わせて考えざるを得ないことも確認し、附属校園の将来構想を練る小委員会を設定した。

5. 自己点検評価

「国立大学法人評価委員会」による評価に備えるため、平成16年度について自己点検、評価をすることとした。各附属校園により、評価の記載がまちまちであったため、統一した記載とすること、評価項目は中期目標、中期計画に合わせることを了解した。

6. その他

10年者研修はすでに平成15年度より経験済みであるが、準備状況に反省すべき点があった。今後は、前年の3月よりはじめ、附属校園長から学部長に研修員を推薦し、学部長が決定すること、研修計画書、評価書を作成し、学部長に報告することとした。

学校評議員制度について協議し、任期を2年とすること、再任についてはさらに検討を続けることを確認した。

科学研究費補助金（奨励研究B）に積極的に応募するよう協議した。ただし、附属校園では通常の共同研究を実施しているにもかかわらず、科学研究費補助金による研究は個人研究しか認められないなどの難点があることも理解し合った。

（評議員（学部・附属交流会議担当） 朴木佳緒留）

4.3. 附属住吉校

1. 基本的な目標

本校の中期目標・中期計画は、「学部教員と共同して『国際教育センター』を中心とした『国際教育推進プログラム』を研究開発し、小中9年一貫の教育体制のなかで試行する。」ことである。そのため、日本語カリキュラムは「平成16年度における補習授業校のための指導案（日本語力判断基準表及び診断カード）の研究作成に係る事業」を文部科学省から委嘱を受け進めてきた。

英語カリキュラムは、小学校6年間の系統性だけでなく、小学校から中学校への円滑な導入を図るための9年間の視野に入れたカリキュラムとなるよう検討してきた。また、多文化社会に生きる資質の育成を目指した学部教員との共同研究は、平成15年度よりメディアリテラシーなど12のプロジェクトを立ち上げ教材開発や授業研究を定期的に続け、その成果を学会発表や論文並びに研究発表会で発信してきた。具体的な取組みは、以下に述べる。

2. 教育課程

(1) 英語

基礎的な英語を用いて実践的コミュニケーション能力や態度の育成
年間指導時間数は、小学校1～3年18時間。小学校4～6年35時間
国際化に対応するカリキュラム開発研究
ALTによる授業の充実と、帰国子女の英語能力の保持と増進

(2) 総合学習

1・2年は国際文化学習、他学年は調べ学習・テーマ総合学習・国際文化学習の3部門で構成（小学校）
グローバルで学際的（環境・人間・社会からの追究）な学習活動（中学校）

(3) 学校行事

小学校4年宿泊活動（淡路島方面7/7～9）、小学校5年宿泊活動（但馬方面7/15～17）、小学校6年宿泊活動（飛騨高山方面7/15～17）
中学校1年オリエンテーション合宿（明延方面4/20～23）・近江の旅（滋賀マキノ11/16～18）・宿泊活動（徳島阿南方8/22～23）・史跡巡り（吉野・飛鳥11/16～18）、中学校3年修学旅行（沖縄久米島方面5/10～13）
小学校不審者侵入時対応訓練・児童引取訓練（6/4）、火災時避難訓練（9/1）、地震時避難訓練（1/17）
中学校不審者進入時対応訓練（4月20日実施予定）、地震・火災避難訓練（1/17）

(4) 教育実習

小学校事前実習45名（5/10～11）、小学校教育実習22名（9/6～10/1）
中学校事前実習6名（5/6）、A・B・C事前実習23名（7/8～9）、中学校卒業生&D教育実習6名（5/17～6/11）・A&C教育実習21名（9/6～10/1）・B教育実習2名（10/4～10/29）

3. 研究

(1) 近畿地区国立大学附属学校連盟

近附連 幼小部会 理科：公開授業・研究討議（11/8）
近附連 中高部会 理科：公開授業・講演・研究討議（6/21）
近附連 特別部会 帰国子女教育：公開授業・研究討議（12/8）
近附連 特別部会 同和：公開授業・講演・研究討議（12/8）

(2) 学部共同研究

住吉校国際教育センターの研究部門を中心に、国際的視野で活躍できる「資質」「能力」「共生の心」の育成を目指し、英語コミュニケーション、日本語カリキュラムなど12のプロジェクトによる大学との共同研究を推進。
ヒューマン・コミュニティ創成研究センターとの「ジェンダー」に関する連携研究の実施

授業研究・プロジェクト研究における大学との連携研究の実施

(3) 学会発表・論文

学 会 等 名	発 表 論 文 名
日本認知科学会第 21 回大会	「デザイン研究に参加した教師の学びに対する認識の変化」
日本科学教育学会第 28 回年会	「Web カメラを用いたビデオクリップ自動作成システムの授業利用に関する考察」他 6 件
日本理科教育学会第 54 回全国大会	「Knowledge Forum を利用した理科授業のデザイン実験：小学校第 6 学年「燃焼」における学習環境の開発」他 3 件
IKIT Summer Institute 2004	“Elementary Science Curriculum as Knowledge Building”
日本教育工学会第 20 回全国大会	「カメラ付き携帯電話を利用した学習支援システム：小学校 1 年生における生活科での実践例」他 1 件
理科教育学会近畿支部大会	「Knowledge Forum を利用した学習環境のデザイン実験：遺伝子組換え食品を題材にした単元の開発」他 1 件
日本科学教育学会第 1 回研究会	「遺伝子組換え食品問題に対する社会的意思決定をテーマとした科学教育のための CSCL 環境：単元目標の達成の評価」他 1 件
日本科学教育学会第 3 回研究会	「Knowledge Forum を利用した学習者の科学的思考の分析：小学校第 6 学年「燃焼」における協調的な仮説設定」他 1 件
International Conference on Computers in Education	“Development of Collaborative Learning Support System Using Camera-Equipped Mobile Phones : A demonstrative experiment in a 1st-grade class of a Japanese elementary school “
日本教育工学会	(論文)「カメラ付き携帯電話を利用した協調学習支援システムの開発と評価」 (論文) “Progressive Refinement of CSCL-Based Lesson Plan for Improving Student Learning as Knowledge Building in the Period for the integrated Study
第 51 回日本学校保健学会	「ソーシャルサポートに着目した、学級と保健室が一体となる支援方略の開発」
KELES2004 関西英語教育学会	「相互評価を通してコミュニケーションを高めあう学習～相手意識を軸にした附属住吉の実践から～」
第 20 回異文化間教育学会	「帰国児童・生徒の心の安定を図るためにメンタルフレンド制度の活用を通して」
日本児童英語教育学会	「小中におけるよりよい英語授業とは - 小中の相互売り買いを深めるために」
第 25 回異文化間教育学会	「帰国児童・生徒の心の安定を図るために - メンタルフレンド制度の活用を通して」
第 8 回関西英語教育学会	「指導に役立つ英語教室の談話分析の一考察 SETT 処理を用いて」
第 28 回日本科学教育学会	「再構成型コンセプトマップ作成ソフトウェアの機能拡張に関する実践的評価 ブックマーク機能を活用した中学校理科の授業デザイン」

第 15 回英語授業教育学会	「実践的コミュニケーション能力を育成する授業」
数学教育学会秋季年会	「方法の対象化を原理とした確立のカリキュラム構成(1)」
日本数学教育学会第 37 回数学教育論文発表会	「確立概念の認識における水準について」
英語授業研究会関西支部第 139 回例会	「ペア・小集団を用いた内容を深める授業 不規則動詞・過去形の指導(中 2)」

(4) 研究発表会

- IT による協調学習支援「社会と協働する科学教育研究」(10/29, 10/30)
- 数理認識「主体的に数理認識を高め合う授業とは」(11/26)
- メディアリテラシー「ことばの創り手を育てる国語科総合単元学習の創造」(11/26)
- 第 13 回発達科学シンポジウム「子どもの身体と心の調和した発達を考える」(2/4)
- 日本語カリキュラム「日本語教育セミナー in KOBE」(10/30)
- 第 20 回国語科総合単元学習授業研究発表会(11/26)
- 第 36 回全国協同学習研究大会(2/18)

(5) 学部連携

- 「描画の中に現れる自我の発達段階」調査(児童・保護者対象)
- 「就学児童をもつ親の子育てに関するアンケート」(児童・保護者対象)
- 「子どもの生活に関する意識調査」(児童・生徒・保護者対象)
- 「家族関係の機能状態の認知と子どもの学校生活におけるストレスとの関連」(児童・保護者対象)
- 「子どもの自己表現を引き出す授業」(教員対象)
- 「食育と栄養教諭アンケート」(教職員対象)

4. 国際教育センター

(1) 帰国子女教育学級

海外から帰国した 4 年生以上の学齢児童及び生徒の実態や特質に応じて、初等教育を行う。

一般学級との相互交流の中で、国際教育の充実を図る。

現在、フィリピン・香港・マレーシア・シンガポール・アメリカ・ポルトガル・イギリス・フランス・オランダ・ドイツからの帰国児童生徒によって構成される。

(2) 国際教育推進プログラム

日本語カリキュラムに関しては、「平成 16 年度における補習授業校のための指導案(日本語力判断基準表及び診断カード)の研究にかかる事業」を文部科学省の委嘱を受け進めている。日本語カリキュラムの作成に当たって、前提となる研究を本年度中に終了し、次年度から具体的なカリキュラム開発にかかる。また、英語カリキュラムは、小学校 6 年間の系統性だけでなく、小学校から中学校への円滑な導入を図るため、中学校を含めた 9 年間で視野に入れたカリキュラムとなるよう検討した。

5. 学校評議員会

第 1 回学校評議員会 (11/24)

- ・「神戸市における国際理解教育」を神戸市総合教育センター国際教育推進室主席指導主

事より提案

- ・ 「国際教育の在り方」を兵庫県立芦屋国際中等教育学校長より提案
- ・ 国際教育の現状と課題について協議

第2回学校評議員会（2/25）

- ・ 「国際教育センター運営方針」を小中学校より提案
- ・ 今後の国際教育の方向性と本校の国際教育について検討

6．入学選考，進路指導

(1) 小学校

受験：男 249 名、女 261 名、計 510 名

合格：男 60 名、女 60 名、計 120 名

- ・ 募集要項配布（10/1～11/24），募集説明会（11/25・11/30），願書配布（11/25～11/30），願書受付（12/3～12/4），入学選考日程 検査（12/21）検査（12/23），検査合格者発表，抽選（12/25）

(2) 中学校

受験：連絡進学 男 42 名、女 46 名、計 88 名

A 外部進学 男 26 名、女 40 名、計 66 名

B 外部進学 男 34 名、女 20 名、計 54 名

合格 連絡進学 男 42 名、女 46 名、計 88 名

A 外部進学 男 6 名、女 17 名、計 23 名

B 外部進学 男 5 名、女 4 名、計 9 名

- ・ 募集要項・願書配布（10/1～1/27），入試説明会（11/13・12/3・12/11）
- ・ 入学選考 A 日程：作文，面接，調査書（1/22）
B 日程・連絡進学：算数，理科，国語，社会試験及び面接（1/28）
- ・ 検査合格発表：A 日程（1/24），B 日程及び連絡進学（1/31）

7．地域連携，PTA 活動

- (1) 第1回クリーンアップ作戦：PTA と教師による学校から阪急御影駅までの通学路の清掃で，70 袋のゴミを回収。（6/6）
- (2) 神戸大学アメリカンフットボール部レイバンズが来校しデモンストレーションによる小中学生へのアメリカンフットボール指導。（9/10）
- (3) 神戸大学アメリカンフットボール部レイバンズ対関西学院大学イーグルス戦を小中学生と保護者及び教師で応援。（10/3）
- (4) 第2回クリーンアップ作戦：学校周辺から赤塚橋バス停を含め清掃。（3/9）

8．学校保健委員会

- (1) 小学校：六甲アイランド病院小児科部長より「ノロウイルスによる食中毒について」の説明を受け，給食室及び学校の衛生管理への対応策を紹介。学校危機管理メンタルサポートセンター教授より「これからの学校危機管理とソーシャルサポート」を講演。（2/9）
- (2) 中学校：気になる生徒について，人間関係や家庭のこと，学習のこと等を通して，「睡眠」「ストレス」との関わりの中で考える。音楽療法士補，長谷川覚子氏による「音楽セラピー」を通して心の健康について学習。（12/9）

（附属住吉小学校長，中学校長 山崎 健）

4.4. 附属明石校園

1. 基本的な目標

- (1) 幼稚園の園児 175 名，小学校の児童 478 名，中学校の生徒 360 名に対して，健全で，心豊かでたくましく生きる子どもの育成をねらって，教育実践を行ってきた。そして，幼稚園では 70 名の修了児，小学校では 79 名の卒業生，中学校では 120 名の卒業生を送り出した。その間，小学校では 2 名，中学校では 2 名の不登校者が出ているが，大きな事故や問題もなく本校園のねらいが，おおむね達成できている。
- (2) 平成 16 年 5 月 28 日に，幼・小・中が一体となり，発達科学部のコラボレーション委員を中心に連携・共同して研究協議会を開催した。
- (3) 幼稚園では 9 名，小学校では 12 名，中学校では 15 名の教育実習を行った。

2. 教育目標・計画

- (1) 平成 12～14 年文部科学省の研究開発の指定を受けた教育課程研究「社会を創造する知性・人間性を育むことをめざした教育システムの開発～子どもの学びから創造する 12 ヶ年のカリキュラム～」での成果である「学びの一覧表」をもとに，生涯学習のための基礎・基本を養うとともに，一人ひとりの個性を最大限に伸ばし，心豊かでたくましく生きていく子どもの育成をめざした教育を 12 ヶ年にわたって一貫して実践した。
- (2) 子ども一人ひとりの学びに即したカリキュラムをもとに，幼・小・中の教員が一体となり，異校種間の教員や子どもの交流を深めてきている。具体的には，5 歳（幼稚園年長組）と 6 歳（小学校 1 年）が，年に三つの単元学習を通して一緒に活動したり交流したりできた。また，12 歳（中学校 1 年）が，11 歳（小学校 6 年）の学習に参画した実践を行った。
- (3) 本校園においては，これまでに「子どもの育ちの記録法を探る」をテーマに幼・小・中の教員全員が，望ましい記録のあり方の研究をしてきた。子どもとの望ましい関わり方を共通理解し，まなざしの共有化を図ることがよりよい一貫教育を可能にすると考え，幼・小・中 12 年間の発達と教育の縦断的研究に取り組んできている。研究項目としては，興味・関心，人間関係・交友関係，自己認識，意欲・根気・素直さ，子どもの変容とその要因をあげ総合的な研究を行ってきた。

3. 研究目標・計画

本校園に設置されている「附属明石校園カリキュラム開発研究センター」の事業を学部と本校園との緊密な連携を図りながら，学部の理論研究と附属校園の実践研究の相互交流をするために行っている。具体的には，次のような事業を行った。また，その事業報告として，機関誌「子午線 3」を本年度の 8 月に発行した。

(1) 発達支援カリキュラム開発と公開

このことについては，前述の「教育目標・計画」での報告を参照していただきたい。

(2) 地域の学校におけるカリキュラム開発の支援

幼稚園での実施は，以下のとおりである。

- ア 県内外の公立幼稚園教諭・近畿地区内の附属幼稚園等教諭を対象に，「幼稚園教育を考える研究会」を年間 2 回開催した。参加者総数は 107 名であった。また，参加者から得た協議会の成果や参加者からのアンケートをもとに，専門家育成システムのあり方を探った。
- イ よりよい教育実習プログラムの開発のため，大学教員と連携して「教育実習におけるメ

ンタリングの機能に関する研究」のテーマのもと、研究を行った。

ウ 地域の公私立幼稚園の教員の資質向上を目的とした日常的な参観者に保育参観を行うとともに、幼稚園教育のあり方や特色あるカリキュラムづくりのための講話等を行った。年間で、8回の幼稚園訪問があり、参観者は22名であった。また、他の幼稚園への講師派遣者の延べ人数は22名であった。

附属明石小学校での実施は、以下のとおりである。

ア 明石市教育委員会と連携して、2月18日に実践交流会を行った。総合的な学習を中心に市内の教師40名余りが参加して、学習リフレクションをもとにした校内研修のあり方を深めた。

イ 年間で、10回の学校訪問（参加者15名）があり、他校への講師派遣者の延べ人数は21名であった。

中学校では、年間で2回の学校訪問があり、参観者は6名であった。また、他校への講師派遣者の延べ人数は21名であった。

(3) カリキュラム開発研究資料の収集と閲覧

及川平治主事の文献収集や情報収集を継続して行っている。特に、本年度は、附属幼稚園・附属明石小学校の創立百周年に当たり、一昨年からの記念事業の一つに及川平治記念文庫部が設置され、文献・情報収集の充実に向けて取り組んだ。

カリキュラムの開発研究資料の閲覧者は、及川平治主事研究だけでなく、戦後のコア・カリキュラムの研究にもわたり、延べ人数として15名であった。

(4) 乳幼児発達支援教室の充実

地域の乳児・幼児の子育てに関わる諸問題の相談と親子の関係づくりに貢献するため、学部教員と連携して研究テーマ「附属幼稚園をベースとした子育て支援プログラム構築のための予備的研究」を設定し、調査研究を行った。

ヒューマン・コミュニティ創成研究センター（以下「HCセンター」という。）と共催のもと、「発達科学シンポジウム：幼稚園・保育所における子育て支援のあり方」を開催した。参加者は93名であった。

4. 学部との共同研究の目標・計画

(1) 昨年、学部・附属との研究をより密に行うために研究コラボレーション委員会を立ち上げた。

その関わりを深めつつ、科学研究を行っている。また、平成17年度科学研究費補助金（奨励研究B）について、幼稚園2件、小学校4件、中学校15件申請した。

(2) コラボレーション委員と共同で、学部の初等教育コースの学生に対して、国際理解教育やキャリア教育などについて講義を行った。

(3) 文部科学省の研究開発の成果の一つである「学びの一覧表」とその基礎ベースになる約4,000余りの「学び」とを学部の教員に配布した上で、発達や能力開発の面から検討や指導を依頼し、データの共有化を行った。

5. 地域・社会貢献の目標・計画

このことについては、前述の「地域の学校におけるカリキュラム開発の支援」での報告を参照いただきたい。その他としては、以下のようなことを行った。

(1) 本校園全体として、県・市郡町教育委員会に出向き、制度化された初任研修及び10年経験者研修のために附属ができることのパンフレットを配布し、協力依頼を行った。

(2) 幼稚園

HCセンターとの共催により「発達科学シンポジウム：幼稚園・保育所の子育て支援のあり方」を開催した。話題提供者・指定討論者・参加者を交えて協議を行った。

「幼稚園教育を考える研究会」を年2回開催した。幼稚園教諭としての資質向上のため、子どもの事実をもとに参加型研究会の形式で行った。対象は、県内外の幼稚園教諭・指導主事等である。

(3) 小学校

明石市立教育研究所の自主研修会として、授業公開並びに研修を行ったり、自主研修に参加したりしている。

伝承遊び、明石の昔、安全集会などの学習に、地域住民に支援者として関わってもらい、地域住民特に高齢者には好評を得ることができた。

附小バザールアンドステージ(フェスティバル)や育友会主催のバザーなどにも、地域住民の積極的な参加を得て、好評であった。

(4) 中学校

体育祭や選択総合学習発表会に、地域の住民にも呼びかけ多数の参加を得た。

6. 施設設備の目標・計画

(1) 幼稚園では、よりよい教育実践を行うため、また、安全確保のために、老朽化した固定遊具・総合遊具等の大改修を行った。特に、安全面で問題がある遊具に関しては撤去した。

(2) 小学校では、平成16年度に校舎全面改修が予定されたので、校舎全面改修検討委員会を設置し、校舎の図面作成や改修内容の検討を行った。また、そのために全面改修が終わった他附属校の情報や校舎建築の資料収集を行った。

(3) 中学校では、小学校に続いて、平成17年度に校舎全面改修が予定されており、充実した教育環境を創り出すために、校舎改修準備委員会を発足させ、資料収集を始めている。

7. 管理・運営の目標・計画

(1) 学校評議員会

昨年度に学校評議員制度を発足させているが、本年度も幼稚園5名、小学校5名、中学校6名に学校評議員を委嘱した。そして、第1回は、6月25日に開催し、幼・小・中合同で行った後、各校種ごとの部会に分かれて行った。部会では、学習参観をしたり、学校経営方針や校務分掌について話し合ったりした。第2回目は、11月26日に合同と各部会ごとに分かれて協議を行った。その内容は、4月からの主な教育活動の取り組みや子どもの様子、附属校園のあり方についてであった。第3回目は、2月17日に、附属校園全体で、中期目標・中期計画や安全衛生委員会の発足と附属校園の安全について協議した。

(2) 附属校園の安全について

附属校園全体

イ 明石市の教育委員会並びに明石警察署との連携を保ち、情報の入手や連絡などスムーズに行えた。

ロ 各校種ごとに、これまでに設置し施設・設備の他に、「さすまた」や防犯スプレーを設置した。

幼稚園

イ マニュアルを確認し、防災並びに不審者対応の訓練を行った。

□ 園内の遊具等について、年1回専門家による点検、学期に1回各担任による点検、毎日の当番による点検を行った。その結果、危険箇所については改修し、危険遊具については撤去した。

ハ 不審者の情報は速やかに保護者に連絡し、安全面での徹底を図った。

小学校

イ 教育委員会や警察署から情報が入るたびに、児童に対しては、各担任による指導、保護者に対しては、文書を配布して安全の徹底を呼びかけてきた。

□ 安全管理については、防災・震災訓練を年2回行った。

ハ 阪神淡路大震災に近い1月14日に、安全集会を行い、明石消防署の協力を得て、当時の様子や安全対策について指導を受けた。

中学校

イ 当初予定していた「防犯訓練」が、台風23号上陸のため中止となった。

□ 3月4日に大阪教育大学附属池田中・高等学校で実施された「学校危機管理メンタルサポートセンターフォーラム」に参加し、それをもとに3月25日に「職員研修」を行った。

ハ 同日、心臓性突然死を防ぐ「自動対外式除細動器」AEDを使用した救急救命講習会も実施した。

8. その他（幼稚園と小学校の創立百周年記念行事の実施）

(1) 小学校では、創立百周年記念事業基金を創設し、その発起人代表として牛尾治朗氏、また、卒業生、元附属教員、元育友会の役員に発起人として協力を得た。

(2) 9月10日小学校の児童と保護者を中心とした「百周年を祝う会」を校内で行った。

(3) 9月19日神戸ポートピアホテルで、附属幼稚園・附属明石小学校合同の記念式典並びに祝賀会を開催した。この催しに、文部科学大臣の代理として文部科学省高等教育局専門教育課長杉野剛氏、兵庫県知事の代理として兵庫県教育長武田政義氏、明石市長北口寛人氏、神戸市長の代理として神戸市教育長小川雄三氏、神戸大学長、発起人代表牛尾治朗氏はじめ多数の出席を得て盛大に開催できた。

(4) この式典では、学部の田村文生助教授の作曲による百周年記念愛唱歌「いつまでも」の披露、新しく変更した制服の発表や百周年記念品として牛尾治朗氏による「総合遊具」の目録贈呈などが行われた。

(5) 10月29日幼稚園の園児と保護者を中心として「創立百周年記念お祝いの会」を園内で行った。

（附属明石小学校長、中学校長、幼稚園長 齊田好男、城 仁士）

4.5. 附属養護学校

1. 障害児教育の創造的実践と研究

(1) 授業計画と教育実践カルテ(個別の指導実態と課題)を作成し、学期ごとの授業実践記録を作成した。

(2) 指導要録と学期ごとの個別評価(「あゆみ」)を作成した。

(3) 学校行事(入学式、修学旅行、運動会、成人祝賀会、学習発表会、卒業式など)や学部行事(校外学習、校内合宿など)を実施した。

(4) 日本教育大学協会近畿地区特殊教育部門研究集会を11月19日に開催した。

- (5) 障害児保育・教育実践交流会を11月19日に開催した。
- (6) 研究集録 .30 を発行した。
- (7) 実践と研究をまとめ、出版する準備をすすめた。

2．大学との連携に関すること

- (1) 「小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律，平成9年法律第90号」による介護等体験実習を年間，58日，210名の学生(発達科学部，他6学部，2研究科)に対して実施した。1人2日間の実習である。
- (2) 障害児教育学コース学生8名の障害児臨床実習を次のような日程で実施した。
 - 6月 2日 第1次実習前ガイダンス
 - 9月 8日 第2次実習前ガイダンス
 - 9月 8日～14日 事前実習
 - 10月18日～28日 本実習
 - 10月29日 事後実習
- (3) 発達科学部「知的障害のある成人を対象とした公開講座」プログラム開発研究会（発達科学部津田英二助教授主催）へ参画した。

3．地域との交流・連携

- (1) 進路指導の一環として，次のような現場実習を実施した。
 - 高等部2年次生（8名）市内授産更生施設で4日間実施
 - 高等部3年次生（7名）6月に更生施設と福祉工場で4日間実習
 - 10～11月に更生施設，作業所，グループホームなどで実習
- (2) 障害幼児親子教室として，地域の就学前障害児の療育と教育相談を以下のように実施した。
 - 年間実施日数 10日（月1回土曜日実施）
 - 参加登録幼児 35名
 - 参加延べ人数 親子122組
- (3) 地域障害者福祉ネットワークである「明石障がい者地域生活ケアネット」に参画して，教育福祉懇談会（7月31日）などを実施した。
- (4) 地域に貢献する教育実習として，以下のとおり実施した。

兵庫教育大学大学院生の教育実習（9名）	5月31日～6月11日
花園大学学生（1名）	5月31日～6月11日
佛教大学学生（1名）	10月18日～28日
- (5) 附属明石小学校（1月28日），三木養護学校（6月30日）との交流学习を行った。
- (6) 居住地校との交流（年5回）を行い，明石市内小中障害児学級担任者会や合同行事へ参加した。木の根学園職員との懇談会（8月11日）を実施した。

4．学校運営

- (1) がっこう新聞，学部だより，学級通信を定期的に発行した。
- (2) ホームページの更新を継続的に行った。
- (3) 学校評議員会を次のとおり開催した
 - 第1回 1月16日（日）9：30～14：00
成人祝賀会見学，学校の現状報告，施設面での意見聴取
 - 第2回 2月11日（金）10：00～15：00

学習発表会見学，発表会の感想，教員定数，勤務内容などについて

(4) 安全管理・確保に関して，毎月の安全点検と併せて，不審者対応の防災訓練を明石警察署の協力を得て実施した。(11月24日)

5. 施設設備の改善

給水管の取り替え及び教室空調設備の設置など大きく改善された。

6. 入学・教育相談，入学選考

(1) 学校見学会と入学説明会を，以下のように行った。

第1回学校見学会 6月8日

授業参観，施設見学，懇談会(参加者70名)

入学相談(教育相談) 9月6日～11月12日

相談件数 小学部14件，中学部9件，高等部5件

入学説明会 10月1日

平成17年度児童生徒募集要項発表

5教育委員会指導主事が参加

第2回学校見学会 10月12日

授業参観，施設見学，懇談会(参加者90名)

(2) 入学選考は12月2日に実施した。結果は以下のとおりであった。

入学志願者数 小学部3名(編入1名)，中学部7名，高等部3名

合格者数 小学部3名(編入1名)，中学部5名，高等部2名

(附属養護学校長 二宮厚美)